



ルリーロ福岡通信

ラグビータウンプロジェクト推進係 75 - 3343

ルリーロ福岡ホーム戦



ルリーロ福岡で学生広報をしている久留米大学の小山りんです！今月号では、ルリーロ福岡を退団後もうきは市で働き、暮らし続けているおふたりにお話を伺いました。

年中フルーツ狩りができる「やまんどん」で働く川原勇大さん。そして、博多万能ねぎ農家として働く靱山拓己さん。おふたりのルリーロ福岡に入団したきっかけからプロラグビー選手を引退してもうきは市に暮らす理由、そして今後の挑戦までをお届けします！

ーうきはで続ける挑戦（川原勇大さん）

「大学のラグビー部の先輩で、当時ルリーロ福岡のキャプテンを務められていた西村光太選手から声をかけていただいたのが入団のきっかけです。本格的なプロラグビーには大学卒業と同時に一度区切りをつけていましたが、先輩から機会をいただいたのもう一度チャレンジしてみようと思いました。入団当初はうきは市のことをまったく知らなかったの、仕事を探しながら市内を見て回りました。農業が盛んな地域であることを知り、地域の皆さんと深く関わることでできるところに魅力を感じて『やまんどん』で働き始めました。勤めて4年目、農業への興味が更に深まり、兼業という形で個人でも農作業に取り組んでいます。今後はその規模を少しずつ広げて、将来は自分の農園を持ちたいです。なんといっても、うきは市の住みやすさと周りの皆さんのあたたかい人柄にいつも助けられています！いつもありがとうございます」



柿を収穫する川原さん

ーうきはでつながり広がる縁（靱山拓己さん）

「もともと北海道に住んでいたのですが、雪の多い暮らしが得意ではありませんでした。そこで生活の拠点を換えようと思い南の方への移住を考えていたところ、以前に所属していたチームの後輩でルリーロ福岡の選手である黒川ラフィ選手から誘われたことをきっかけに入団を決めました。うきは市の会社で働きながらラグビーを続ける中で、博多和牛農家の大熊さんとの出会いをきっかけに、その仕事に憧れるようになりました。昨年のシーズン中から、自分でも農業を始めたいと思い、少しずつ準備を始めてきました。

うきは市には、人材不足や高齢化などで使われなくなってしまった耕作放棄地が多くあります。そこで同じくルリーロ福岡を退団された川原さんと協力し、こうした土地の活用に向けた取組を進めていこうと考えています。当初は、慣れないうきはでの暮らしに少し不安もありましたが、農業を通じてたくさんの人と出会うことができ、うきは市に来て良かったと感じています」



丹精込めて育てたねぎを持って話す靱山さん

「ルリーロ福岡の選手としてうきは市に来たから今がある」というおふたりの言葉がとても印象的でした。現役時代にうきは市の魅力を知り、引退後も市に定住して活動する姿は、まさに地域密着型スポーツチームが目指す姿のひとつなのではないでしょうか。おふたりの今後の挑戦が、これから先のうきは市に明るい未来をもたらしてくれることに期待が膨らみます！今月も最後までお読みいただきありがとうございました。